

様式第1号

会 議 録

会議の名称	平成23年度 第1回社会教育委員会議
開催日時	平成23年5月25日(水) 午前10時00分～午前11時30分
開催場所	所沢市役所低層棟全員協議会室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 社会教育関係団体の補助金について (2) 社会教育事業の今後のあり方について —前回会議録のキーワードから—
会 議 資 料	資料1 平成23年度 社会教育関係団体補助金(交付金)一覧 資料2 「前回会議録キーワードから」 資料3 平成22年度 第3回 社会教育委員会議 会議録 資料4 「無縁社会」における社会教育の出番と役割 —「地域参画力」を育む意義と可能性— (社会教育2011年2月号(財全日本社会教育連合会発行))より 資料5 住民の地域参画を促進するための方途 ～「地域のつながり」と「地域課題の共有」 (社会教育2011年2月号(財全日本社会教育連合会発行))より 資料6 これからの生涯学習・社会教育施策を考える視点 ～新しい公共と古い??公共～ (社会教育2011年3月号(財全日本社会教育連合会発行))より 資料7 新しい公共と住民の学習力 (社会教育2011年4月号(財全日本社会教育連合会発行))より
担 当 部 課 名	教育長・佐藤徳一、教育総務部長・山岸裕司、 生涯学習推進センター所長・金子美也子、文化財保護課長・鈴木正行、 スポーツ振興課長・関口恭一、所沢図書館長・斉藤雅裕 教育総務部社会教育課 参事兼社会教育課長・則武辰夫、主幹・浅野浩一、主査・吉田謙治、 主査・佐藤尊之、主任・粕谷紀夫 教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
社会教育課長	【1 開会】
教育長	【2 あいさつ】 東日本大震災以後、初めての会議開催になるわけだが、被災地では、教育の基盤である家庭が無くなってしまった状況があり、今後どのようになるのかと考えるところだ。この会議では、所沢市の社会教育をどのようにしていくのか、議論を深めていただきたい。
議長	この会議は、年度が改まり1回目、新委員になって3回目の開催になる。様々な団体から選出されている方々なので、意見や情報を交換・提供するのもこの会議の役割ではないか。今回は事務局から事前資料も提供されているので、活発な議論をお願いしたい。
委員	【3 議事】 (1) 社会教育関係団体の補助金について 資料1に沿って事務局より説明を行い、意見を求めた。
委員	所沢市PTA連合会の所属団体は、43団体である。訂正をお願いしたい。
事務局	市民文化フェア実行委員会への補助金が一覧に含まれているが、4月の市民文化フェアは中止になった。どのようになるのか。
事務局	4月2日、3日に実施予定であった市民文化フェアは、東日本大震災の様々な影響を考慮して中止となった。しかし、当初予算としては資料に記載のとおりである。今後、事業実施準備で発生した経費を精査し、補助額を決定した後、減額補正していくことになる。
委員	内容の全部は分からないが、それぞれの団体の総予算額が分かれば、もっと内容も分かるようになるのではないか。
議長	今後、資料の作成にあたっては、今の意見の検討をお願いする。

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
副議長	<p>所沢市子ども会育成会連絡協議会の所属団体と、校区子ども会育成会の所属団体は同じ22団体であるが、どのようになっているのか。</p>
委員	<p>連絡協議会の加盟団体が22団体であり、校区で育成会を組織しているところが22団体ということである。</p>
事務局	<p>補足すると、通学班や町内会単位などで活動している子ども会活動は様々あるが、校区単位で子ども会育成会を組織したところに対して、交付金を支出している。一方、所沢市子ども会育成会連絡協議会は、加盟している校区子ども会育成会に対して、研修事業を行ったり、安全会（安全互助会）の取りまとめを行ったりしている連合組織である。この連合組織の活動支援を目的に補助金を交付しているところである。</p> <p>以上で質疑が終了し、原案どおり承認された。</p> <p>（2）社会教育事業の今後のあり方について ー前回会議録のキーワードからー 資料2に沿って事務局より説明を行い、意見を求めた。</p>
議長	<p>協議に入る前に、専門の立場から関委員に情報提供をお願いしたい。</p>
委員	<p>今日、地域が時代のキーワードになっている。これまでの経済のグローバル化は、特定地域に経済活動の集中化を引き起こしてきた。自動車産業が中部地域に集中している状況や経済活動が集中する東京は、相対的な人口比率が高い例である。一方、地方では今まで過疎化と言っていたが、集落を維持できるかどうかという限界集落となっていて、やがて消滅していくというのが現状である。経済が集中する都市部でも相対的な人口は減少する。都市部でも限界団地という地区がある。地域に魅力がないと人の流失は止まらない。</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	<p>そのような中、社会教育に何ができるか。「地域の教育力」が問われる。かつて村落共同体の中では大人の生活が豊かで、子どももその活動に交じって、大人を観察するなかで子どもは自立することができた。しかし、閉鎖的な空間は、ローカルルールなど限界もあった。一方、現代は現実環境におけるパーソナルで対面的なコミュニケーションは少なく、かつてはパーソナルで対面的なコミュニティが豊富であった。</p> <p>学校教育が普及する中、活字が中心のコミュニケーションが発達し、インターネットが発達した現代では、子どもたちが浴びている情報は飛躍的で開放的であるが、それは擬似的なものでコミュニケーションとしては不十分である。子どもたちが生きていく中で周りの人間とやりとりしていくのは必要不可欠で、今の社会だからこそ対面的コミュニケーションを高める必要がある。</p> <p>青森県社会教育委員会が報告書を出しており、その中でも地域社会が弱体化していると指摘しており「地域の教育力」の重要性は全国的に広がりを見せている。</p> <p>では、地域再生のために何ができるか、というと、社会教育がカギになると私は考えている。東日本大震災後でも話題になるが、戦後日本は豊かだったのかをあらためて考える必要がある。物質の豊かさを求める代わりに犠牲にしてきたものは何だったのかということになる。OECD諸国の中でも、日本は、友人や同僚などと付き合わないという度合い、「社会的孤立度」が最も高く、社会の絆が失われている。</p> <p>そのような中で社会教育は何ができるか。社会教育だからできることは何か。</p> <p>地域とのかかわりが多い子どもプラス高齢者、15才未満65歳以上の数字は、2000年が底で、それ以後増加に転じて2050年には50%ぐらいと予測され、そうなると2人に1人が地域で生活するということになる。今までの社会教育の蓄積、社会教育団体の役割などの重要性が高まっていくであろう。これまで、プライバシーや個人の生活を大事にしすぎて絆が失われたが、それらを大事</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	<p>にしつつ、社会や行政とのつながりをどのように保つかが再生につながる取り組みになるだろう。所沢市でも、脳疾患などによる中途障害者を対象に公民館でリハビリ交流会を行っている。病気は個人情報であるが、病気が一つのきっかけとなって、地域の中で多くの人とつながりを作っていく、これも一つのあり方である。</p> <p>ベッドタウンという言い方があるが、「寝るための町」という消極的な外から定義されている面がある。そうではなく、自分たちが魅力ある街に変えていくチャンスととらえ、社会教育の中で取り組む必要があるのではないか。これまでの社会教育の蓄積を生かせば、地域の魅力を発見できる取り組みが見つかるであろう。</p>
議長	<p>色々と情報を提供いただいたので、これをきっかけとして、議論していきたいと思うので、発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>子どもの成長について、家庭の役割が基本ではあるが人間は社会的な動物であり、社会の中で必要な知識はその中で獲得する。そういう意味では地域の役割は重要である。子どもは地域の中で様々な大人と触れ合う中で、社会で生きていく資質を獲得していく。学校と親の物差し以外の地域の評価が入る必要ある。所沢市の学び改善プログラムでは、対面コミュニケーションが大事である、としている。この問題が社会教育とはすぐに結びつかないかもしれないが、公民館活動、地域の役割、などは子どもの成長には欠かせないと考えている。</p>
委員	<p>テーマが大きくどのように向き合うか戸惑うところであるが、子どもたちの教育をどうするのか、という立場の発言であったが、大人もコミュニケーションを取らずに勝手に生きている。子どももそうだが、大人にも焦点を当てる必要がある。それが子どもにも良い影響を与えるのではないか。大人への取り組みが必要になるように思う。</p>
委員	<p>公民館で活動するサークルに指導に行くこともあるが、教育ボラ</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	<p>ンティアとして学校に指導に行くこともある。子どもたちは新鮮で、公民館で大人に教えるよりもやりがいを感じる。教育ボランティアとして、地域には学校の教育活動へ参加できる先生はたくさんいる。自分のけいこ場が使えればもっと広がるようになると思う。また、子どもたちの中には、小さいときからお稽古している子もいるが、受験期には辞めてしまい、地域とのつながりも切れてしまうように感じている。</p>
議長	<p>生き生きとしている大人もいて、地域に関わりを持つ必要性に意識ある人となない人の差が広がっていると思う。おせっかいをやく人がいない。</p>
委員	<p>公民館でもちつきなど地域に参加する機会があるが、近所にはマンションが多い中、孫と一緒にマンションの知り合いの子どもたちも庭で遊んでいる。</p>
委員	<p>大人自身も孤立している事例がある。子育て初めてのお母さんが、知り合いがいないので、インターネットで呼びかけ近所で集まって、グループを作った。昔は親や近所で教わったが、今は集まった人の中で情報交換する。個人的な体験になるが、妻を亡くした際、同じ境遇の人が集まって話し合う中で元気をもらった。社会教育というと学ぶ、教えるとなるが、問題解決のために集まりを作るといふ、つながりを作るのが社会教育になるのではないか。学校でも6年と3年の親が話し合うとか、そのような交流するような仕組みづくりが必要になると思う。</p>
委員	<p>人材バンクも地域の情報だが、その場に行ってみれば入る情報であるが、あまり利用していない印象がある。</p>
委員	<p>人材バンクの利用については、病院や老人ホームなどでの演奏など、先生方には声がかかる。利用はされているとは思いますが、出かけていくばかりなので、逆にお稽古場などに来てもらう、ということ</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	があってもよいと思っている。
委員	<p>震災の復興支援のために、子どもたちが募金を行った。子どもが集めた募金なので、被災した子どものためにと岩手へ傘と一緒に届けることにした。募金をしたことを小1の子が近所のおじいちゃんに話をしてほめられた。そのうえ、近所でも募金を集めるとなった。その子は、よその大人に良いことをすれば認めてもらえることを体験できた。指導をしている私たちも、大変うれしい話であった。</p>
委員	<p>子ども会に携わって長いが、大人も忙しくなり活動に関わってくれる人が大変になった。子どもの頃の盆踊りの練習が懐かしかったと話をしてくれた40代の人が出たが、子どもたちにそういう体験を引き継いで欲しい、と思う。大人同士の間で、子どもたちに楽しい思い出を作ってあげたんだ、という想いが広がればいい。</p>
委員	<p>私の経験から言うと、幼稚園は子どもより、親に対する教育も必要な場になっている。若い親にも情報を発信したい。</p>
議長	<p>一通り、皆さんから意見をいただいたが、では、どうするかということになる。委員の情報提供の中に、社会教育の仕掛けが地域再生の糸口、という部分があったが、重いと受け止めている。最初に話題提供をしてくれた立場で、何かあるか。</p>
委員	<p>様々な現場の声をいただいたが、共通する点があるように思う。私の現場は、大学であるが、今は非常に就職難である。企業は、チャレンジ精神、主体性、コミュニケーション能力が必要という。学力があっても、コミュニケーションが取れないと評価されない。皆さんの団体における地道な取り組み、活動が、子どもたちには必要なのだと思う。違う世代との交流が、子どもの将来に力になると考えている。</p>
議長	<p>大変貴重な話が聞けたと思う。具体化できることがあれば、次回以降議論していきたいと思う。</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>ありがとうございました。大変貴重な発言いただいたと考えている。今後については今日いただいた意見を検討し、正式に諮問して意見をうかがえればと考えている。</p> <p>（3）その他 特になし</p> <p>【4 その他】 入間地区社会教育協議会総会について、出席委員より報告があった。</p> <p>生涯学習推進センターより、第4次生涯学習推進計画について簡単な説明を行った。</p> <p>【5 閉会】</p>
副議長	<p>本日は有意義な話がたくさん伺えた。企業の求める人材という話もあったが、我々の団体の活動目標の趣旨と同じであることが分かった。ありがとうございました。これをもちまして閉会とします。</p> <p>以上で終了</p>

所沢市社会教育委員会議 出席一覧

平成23年5月25日（水）10時から 全員協議会室

選出根拠※	氏名	備考	出欠席
学校教育関係者	古屋 正明	所沢市立小中学校校長会 (三ヶ島中学校長)	出
学校教育関係者	澤田 一夫	所沢私立幼稚園協会 会長	出
社会教育関係者	越川 輝代子	所沢市文化団体連合会 副会長	出
社会教育関係者	沢 房江	所沢市子ども会育成会連絡協議会 副会長	出
社会教育関係者	佐野 喜代子	所沢市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団団委員長)	出
社会教育関係者	古市 欣生	所沢市レクリエーション協会 副会長	出
社会教育関係者	長沼 浩	所沢商工会議所 青年部会長	欠
社会教育関係者	田中 克典	所沢青年会議所 副理事長	欠
社会教育・家庭教育関係者	細野 達男	所沢市PTA連合会 会長 (北野小学校PTA会長)	出
社会教育・家庭教育関係者	成田 桂子	所沢市連合婦人会 副会長	出
家庭教育・学識経験者	染谷 哲夫	秋草学園短期大学教授 幼児教育学科	出
学識経験者	田部 真一	淑徳大学非常勤講師 (元市内小学校長)	出
学識経験者	松居 辰則	早稲田大学人間科学学術院教授	欠
学識経験者	有地 好登	日本大学芸術学部教授 美術学科主任	欠
学識経験者	関 直規	東洋大学文学部教育学科准教授	出

※選出根拠＝社会教育法第15条第2項